

これまでの皆様からの質問事項

1. 波多地区での地域自治の仕組みと取り組んでいる事業について

① スライド9以降記載

2. 設立（昭和57年）からの役員、住民の意識の変化について

① S57～平成12年 自治会連合会の意識（要望団体）

※住民交流は、夏祭り、体育大会、盆踊り、秋祭り等

※趣味活動は、踊り、大正琴、習字、お花、写真 . . .

② 平成12年～平成22年 公民館活動と波多コミュニティ協議会との共同活動

住民意識の変化：あまり変化はないのではないか

③ 役員意識の変化：大きく変わった . . .

. . . 自ら考え行動するカタチに変化したと認識（個人差有り）



波多神社で行われる神楽

3. 他地区との研修・情報交換の場はあるのか。住民研修の場は？

① 研修の機会は多くあります（年10回程度）

② 情報交換の場：

・掛合地域自主組織連絡会（2カ月毎）

・雲南市地域自主組織連絡会議（月1回）

・その他（会長会議・近隣組織との調整会議）

- ③ 住民研修は基本的に行わない。
会議等が実質的に研修の場になっている状況
(研修と称して開催しても一定の住民が集まることになる為)

4. 市から支援してもらってよかった点、足りなかった点

【よかった点】

- ① 補助制度の情報と制度導入支援と人的確保
- ② 本庁地域振興課と掛合総合センター地域づくり担当者の支援
- ③ 安定的な交付金の交付制度の継続
- ④ 適切な情報提供
- ⑤ 災害対策支援

【改善要望点】

- ⑥ 施設修繕予算の確保が難しかったこと
- ⑦ 常勤者の賃金額確保・・・令和7年度は一定程度改善

5. 今後支援してほしいこと

- ① 安定的な情報提供と支援人材の確保
- ② 継続的な交付金の交付制度の維持
- ③ 施設改善の予算確保



波多地区民が集う

6. 超高齢化と人口減少の中でこれからの地域維持の課題と対策

- ① 今住んでいる人、生きている住民を少しでも幸せ感を増すことを考えることを需要視している
- ② 特定団体（文化団体・若者組織・移住者）への支援
- ③ 産業（農業・林業等）への支援

7. 移住受け入れや、空き家対策の取り組み

- ① 掛合総合センター（市役所支所）に移住・空き家対策専門職員を配置要望
 - 市役所にはスタッフ配置されているが、配置人材により 差が大きいこと
 - 空き家のなりそうな家屋については予想されるので、事前に調査を行い荒廃空き家にならないように対策をとることが必要
- ② 移住者については、個人差があるが一定の地域に馴染むように助走（寄り添い）期間が必要
- ③ 移住者については、仕事の確保と住居の確保が重要であり、こうした情報を積極的に発信したい
- ④ 個人的に「ライダーハウス」の開設や空き家の斡旋もしている方もあり入居者の実績あり
- ⑤ 10年間で20人程度の1ターン者の実績があるが残りは50%程度
- ⑥ 子供を持つ世帯の移住効果は大きい

8. 集落支援員や地域おこし協力隊の状況

- ① 10年前に地域おこし協力隊として定住実績あり、結婚され3人の子供さんがおられます
- ② 今後も希望者があれば受け入れたい



■波多地区(波多コミュニティ協議会)として

1. 活動を継続させるために行っていること(活動継続のコツ)

- ① 住民が困っていることを常時確認し、この支援に取り組むこと
(住民のことを知り理解しておくこと)
- ② 地区のみなさんに声掛けを行うこと
(一声の大切さ)
- ③ 困りごとの相談があれば、積極的に相談に乗り対処できるものであれば時間を掛けずに行動すること
(たらい回しにしない。行政に確実に伝え対処すること)
- ④ 交流センター職員と地区住民との信頼関係を普段からつくっておくこと
- ⑤ 無理しないこと (状況判断)

2. 活動メンバーの構成

…資料 7スライド、10スライド

3. 地域の様々な団体との関係性

…資料 7と8スライド

4. 地域の代表制

…資料 9スライド

5. 活動する人材をどう集めているか

- ① 活動を継続し、あらたな行動によって維持継続できると考えている
(活動することであり、人材を集めることではない)
- ② 知恵と工夫、やる気と忍耐
- ③ 楽しむこと(担当者 及び 参加者)
- ④ 活動の公表(知らせること)

